

令和6年度 学校評価（自己評価および学校関係者評価）

	1	2	3	4
項目	学習指導について	生徒指導について	進路指導について	I C T 推進について
重点	教職員個々のスキルアップと生徒に還元される授業改善を目指す。	交通事故の未然防止を図る。	生徒の進路意識の高揚を図り、第一志望を実現するための効果的な支援を行う。	Google Workspace、Chromebook、電子黒板等によるICT活用促進を図る。
具体的な取組状況	・校内授業参観期間を年に2度設定したほか、期間外にも積極的に授業の互見を行い、授業改善の意識を高めた。 ・上位層には自律的に学習を進める手立てについて支援し、中・下位層には面談も活用し授業内容の理解と基礎力の定着を促す取組を継続した。 ・各種テスト・模試結果の分析を多角的に行い、3年間を見通した指導の在り方をもとに課題や講座の内容を検討し、改善を図った。	・Googleクラスルーム及び生徒指導部報「うぐいす坂」を通して出来る限りタイムリーな注意喚起を行った。 ・例年通り年間4回の敬天週間を実施した。 ・交通安全教室は春には警察によるもの、秋には生徒会執行部によるものを開催し、特に自転車の安全運転を呼びかけた。	・生徒の学力状況や生徒面談の内容、進路関係の協議会や説明会等での情報を積極的に収集するとともに、classroomや職員会議等を通じて全教員で共有した。 ・実施が困難な事業や、時代に合わなくなってきた事業の見直しを行い、一部は今年度から実施した。加えて、次年度の年間計画の見直しも行っている。 ・冬季講座の実施形態の変更、難関大講座の改善、教員の授業研修講座への参加の促進を行った。	・BYOD移行期間に向けて移行期間版ガイドラインを作成し、生徒・保護者に公表した。また、体験入学時にも来年度からBYODを開始することを参加者に連絡した。 ・学年ごとにBYODの希望をとり、移行期間開始の準備を進めた。 ・校内でのICT活用について、分掌部会等で情報交換をした。
達成状況	・テスト・模試結果の分析を速やかに行い、得点率の低い分野について、過年度や他学年での取組を共有しながら、授業や講座等で底上げを図ることができた。 ・小テストの実施によって確実に基礎力は定着している（国語・数学・英語）。 ・大学入試問題の研究や添削等の指導が教員個々の指導力向上につながった。	・交通事故の報告件数は14件とほぼ例年並みだったが、今年度は1年生の事故が10件と多いことが残念であった。 ・2・3年生については概ね交通ルール遵守の姿勢は育めている。	・教員間で情報を即時に共有したことで、生徒に主体的な行動を促すような日常の声かけや面談の実施に役立てることができた。 ・事業の見直しにより、入試の現状や生徒の状況に合わせた形で事業を継続的に行っていく態勢作りが進んできている。 ・生徒の現状に即した形になるように講座の形態を改善することができた。教員の授業研修は新課程入試の研修として有益だった。	・BYOD移行については、生徒の希望をとった後に問題がありそうなことに気づき、その後の導入が進められなかった。その後すでに導入している他県の状況を参考に改善案を検討し、来年度からBYOD導入することに修正した。 ・「デジタル採点」等の新規事項にICT推進部が積極的に関わって進めた。
評価	A	B	A	B
次年度への改善点	・今年度から始まった45分×7コマの授業について、学習効果を一層高めることができるように各教科で研究を進める。 ・教員間での連携を一層密にして、授業改善を図る必要がある。 ・特に共通テストで初実施された科目について問題を丁寧に分析し、指導の内容・方法を工夫していく。	・今年度の事故を分析（特徴、時期や状況など）し、よりタイムリーな注意喚起を行う。特に新生生には強く注意喚起が必要。	・生徒の志望進路を実現するための学力向上に向けて、授業改善に加え、生徒の学習方法に関する指導について、研究・実践を行う。 ・学年部や教科と連携し、キャリア形成や大学・学問分野、入試動向に関わる情報の生徒への提供をさらに充実させる。	・BYODのスムーズな導入と問題点・活用状況等を整理して、ガイドラインの見直しを進める。 ・ICT推進部を中心にICT活用による授業への活用と業務の効率化のために積極的に研修会等に参加し、共有する。
学校関係者のご意見・ご感想	・全科目で教職員のスキルアップと他学年や多教科間での緊密な情報共有や連携が感じられた。 ・各教科ごとに、生徒の実態把握に基づいた指導の工夫がなされている。45分授業体制で苦労したことも伺われたが、今年度の取組をふまえて今後の指導のよりよいあり方を見出し、適切で効果的な運用につなげてほしい。 ・生徒の「授業アンケート」結果からはグループワークや発表・説明等の言語活動の機会が不足しているとの意見が読み取れるので、もっと言語活動を鍛えコミュニケーションを広げる場づくりをどの教科でも意図的に設けていくべきである。 ・教職員の研修の機会と場をできる限り設けて、常に指導力を磨くことに努めていただきたい。	・1年生の交通事故について、引き続き指導をお願いしたい。 ・事故件数を減らすためには生徒への心に響く指導と家庭の協力を得るためのさらなる呼びかけが必要である。今後は、あえて重点目標に掲げなくとも交通事故の未然防止は当然継続して指導にあたるべきである。そろそろ重点目標を見直して、生徒や保護者が「アンケート」でも求めている基本的な生活習慣（遅刻、整容、挨拶等、いじめや不登校対策）の改善を目指した指導を徹底すべく、全校で取り組んでどうか。	・1年で基礎学力、2年で計画性、3年で主体性等、学年ごとの丁寧な指導が感じられた。 ・年間実施記録から、進路事業の見直しや年間計画の検討が積極的になされたことが読み取れた。これまでの実績・成果をふまえつつ、新たな視点で変更、改善を加えて促進していこうとする前向きな姿勢を高く評価したい。	・授業や保護者との連絡等、効果的な利用に努めている。BYODへの円滑な移行をお願いしたい。 ・ICT推進部のリードのもとでデジタル採点等の新規事項に積極的に取り組んだ努力を認めたい。生徒や保護者アンケートの声を受け止めて、更なる改善と活用促進に向けた環境整備、業務全体の効率化が課題と思われる。
評価	A	B	A	B

令和6年度

1 年 部

年間実施記録

実施計画	重点目標	基本的な生活習慣、学習習慣および基礎学力の確立により、秋高生として自主自律を体現できる、豊かな心をもった生徒を育成する。		
	現 状	自主自律を目指す上で、計画性や実践力がますます必要な状況である。クラスの団結力も高めながら、良好な友人関係も築かせる必要がある。		
	具 体 的 な 目 標	・秋高生としての使命を自覚させ、主体的に行動できる姿勢を育成する。 ・基本的な生活習慣と学習習慣を確立させる。 ・進路目標の明確化と、目標実現のために必要な基礎学力を定着させる。 ・学校行事などを通して、周囲の状況や自己の立場を理解し、他者と協力しながら物事を成し遂げられるリーダーシップを育成する。		
	目標達成のための方策	・手帳などを活用し、学習・部活動・行事などを踏まえたスケジュール管理と実行を促す。 ・自己を見つめ、自分に適した進路目標を見出す機会を多く提供し、適切な文理選択につなげる。 ・部活動や学校行事において、その意義や目的の理解に基づいた主体的な実践を促す。また、諸活動をとおしてルールやマナーの遵守、時間厳守を徹底させる。		
実施内容	具 体 的 な 取 組 状 況	・進路通信『羅針盤』を通して、手帳の活用を促した。 ・各担任の面談や教科面談、主任・副主任面談をきめ細かに実施した。（「ほめて伸ばす」指導の徹底） ・部活動や学校行事が、より主体的な活動となるように話し合いを繰り返し取り組ませた。		
	達 成 状 況	・学習活動を中心としながら、学校行事や部活動などに積極的に取り組ませることができた。 ・進路について、担任をはじめ学年部の職員や外部の方（進路講演会など）の考えに触れ、高い目標の実現のために努力を継続させることができた。	評価	A
次年度の改善策		・より個に応じた進路指導が必要である。 ・学力の全体的な底上げが急務である。 ・より「ほめて伸ばす」指導の徹底を図る。		
学校関係者評価	意見	・自己評価に同じ。 ・丁寧な面談は時間もかかって大変だろうが、個に応じた進路指導のためにも継続してほしい。		評価
				A

令和6年度

2 年 部

年間実施記録

実施計画	重点目標	1. 中堅学年としての自覚を持ち、「おのれを修めて世のためつくす」の精神のもと、主体的に行動できる生徒を育成する。 2. 自己の関心・適性を理解し、確かな基礎学力を身に付けるとともに、探究心と高い目標を持ち、学習や進路実現に向かう姿勢を育成する。	
	現 状	・落ち着いた学校生活を送っているが、各種活動に主体的・積極的に取り組む姿勢がいつそう求められる。 ・質の高い文武両道や進路目標達成に向けて、その実現のための計画性や実践力、主体性が不足している。	
	具体的な目標	1. 中堅学年としての立場を自覚し、周囲や自己の状況を理解した上で、他者と協力しながら物事を成し遂げるリーダーシップを育成する。 2. 自己の適性に基づいた進路目標の明確化と、その達成に必要な学習・生活計画を立案・実践できる力を育成する。	
	目標達成のための方策	・学校行事や集団活動の意義、および各種活動における自己の役割・成長などを言語化することで認識を深めさせる。 ・面談を充実させるほか、進路講演会やオープンキャンパスへの参加を促す。 ・学習をはじめとする各種活動を充実させるために、手帳等を活用して、成果と課題を継続的に生かしていく習慣を構築させる。	
実施内容	具体的な取組状況	・各種活動のあと、活動の振り返りを必ず行わせることで、自己の成長や課題に対する気づきを促した。 ・個々の進路志望や学習状況等に応じた面談を、学級担任のみならず教科担任などもおこない、進路意識を高揚させることができるよう努めた。 ・長期休業や1年のまとめの時期に、生徒自身が作成した学習計画に基づき、自学自習を充実させる取り組みをおこなった。	
	達成状況	・各種活動後の振り返りが、その後の主体的姿勢を構築させたほか、自身の高校生活に向き合い、新たな目標を設定する契機となった。 ・生徒の適性や能力に応じた適切な目標設定に導くことができ、新たなチャレンジに向かう積極性を育むことができた。 ・学習計画の立案が、2～3ヵ月後を見据えた学習のみならず、部活動や生活の充実を意識した目標設定につながった。	評価 A
次年度の改善策		・最高学年としての立場を自覚させ、あらゆる場面において、他者を尊重しつつ、主体的姿勢で学校を牽引していく姿勢の構築を支援していきたい。 ・進路目標や将来の目標に向かって、自らの計画と実践を積み上げる姿勢を確立させることで、自立した学習者が目標を実現する喜びを感じさせたい。	
学校関係者評価	意見	・自己評価に同じ。 ・全体として主体性や積極性を育む取り組みができた。進級に当たっては今まで以上に個に応じた指導を期待する。	評価
			A

令和6年度 3年部 年間実施記録

実施計画	重点目標	1. 「おのれを修めて世のためつくす」の精神のもと、柔軟さと意志の強さを身に付け、社会に貢献する生徒を育成する。 2. 自分の将来や進路を真摯に見つめ、自らの使命感と確固たる決意をもって、高い目標に挑み、達成することができる生徒を育成する。	
	現 状	1. 学校行事や部活動で下級生を牽引し、リーダーシップを発揮する場面が見られるようになってきた。 2. 全体的に学習量は増加傾向だが、個人差が大きい。学習の質や、学習内容の整理・関連付けに課題を抱える生徒が多い。	
	具体的な目標	・最上級生としての立場を自覚し、自己の言動が他者へ与える影響を考慮しながら、学校行事・部活動・生徒会活動をリードする生徒を育成する。 ・客観的な自己分析をもとにした学習計画と実践を通し、確固たる意志で第一志望合格を掴み取る生徒を育成する。	
	目標達成のための方策	・活動の意義や自己の成長・課題を認識させる声かけを徹底する。 ・生徒個々の状況の多角的把握、学年全体での共有、面談機会の充実を図る。 ・模試等における目標設定と、データに基づいた客観的な分析を促す。	
実施内容	具体的な取組状況	・羅針盤による情報提供、学年集会での激励、個人面談、ホワイトボードでのメッセージ発信等を通して、進路・行事・部活動の意義や成果を確認すると共に、課題の提示を行った。 ・模試結果の精密な分析と、分析に基づいた対応策を各教科が講じた。また、面談を通じて生徒へフィードバックを行った。	
	達成状況	・各行事を綿密かつ精力的に企画・運営し、成功へと導いた。また、部活動では多くの生徒が顕著な成果をあげた。 ・適切なタイミングでの情報提供・面談により、進路や学習に対する意識を高め、各生徒に適した進路選択へとつなげた。	評価 A
次年度の改善策		・低学年次における高い意識付けのために、教員の教科・生徒指導・進路指導における組織的な指導力向上を目指す。 ・自己肯定感の向上を通して、心身共に健全な生徒を育成するために、生徒指導・教育相談・学年の連携の強化を図る。	
学校関係者評価	意見	・自己評価に同じ。 ・情報提供や激励が様々な形で適時適切に行われた。 ・部活動や行事等でも顕著な成果が見られた。	評価
			A

令和6年度

国語科

年間実施記録

実施計画	重点目標	1. 生徒の基礎力の定着を図り、主体的・対話的な言語活動を支援する。 2. 生徒個々の進路目標を達成させるとともに豊かな人間性を涵養する授業を目指す。	
	現 状	1. 語彙力、文法に関する知識等、基礎的な力が十分に定着しないまま入学してくる生徒の比率が年々高くなっている。小テストや朝学習での現代文要約等、基本的な知識の定着をこれまで以上に徹底していく必要がある。 2. ペアやグループでの話し合いが、自分の考えを深める場として機能するように、その具体的な手立てについてより一層活発に教員間で情報を交換する必要がある。	
	具体的な目標	・ 国語における受験学力の一層の向上を図る。 ・ 生徒が抱いた疑問や気づきを他者と共有し深めることができるような場面を作り、さらなる成長につながるよう支援する。 ・ クロームブックや電子黒板の有効な活用方法を工夫する。	
	目標達成のための方策	・ 生徒の興味・関心・思考力を高められる教材や情報を共有し、小テストや朝学習等の日々の積み重ねによる圧倒的な基礎力の定着を図る。 ・ ペアやグループでの活動を適宜取り入れ、学び合い伝え合うという言語活動の活発化を図る。	
実施内容	具体的な取組状況	・ 漢字テスト、古文単語テストは毎週、古典文法や漢文の句形の確認テストは随時実施し基礎力定着を図った。東北大AOⅡの文学部・教育学部の小論文、秋田大学医学部医学科推薦入試Ⅱの小論文の指導を国語科全員で担当した。小論文指導のあり方について情報を共有した。 ・ 3年部では難関大志望者を対象に通年で添削指導を行ったほか、2、3年生では TLC や T HC 実施後に解説講座を開き、読解や記述問題に即して具体的に指導を行った。	
	達成状況	・ 小テストの実施によって確実に基礎力は定着している。全体への指導とともに添削等で生徒個々への指導を実施し、より一層の学力向上が図られた。また添削等の指導は教員の指導力向上につながった。大学入学共通テストの自己採点成績では、全国平均を30点上回り受験学力の伸長という点で成果をあげた。 ・ 授業の中で生徒の気づきを共有し深い思考を促すという点では、具体的な方法や授業展開について教員間で情報交換する場を今年度は作ることができなかった。	評価 A
次年度の改善策		・ 生徒の興味・関心を高め、より深い思考へと導くような授業展開や教材について、教員間で共有する機会を科会等を利用して設ける。 ・ 基礎力の定着については、現状に満足せず、成績下位層への効果的な指導について具体的な方策を考え実施したい。	
学校関係者評価	意見	・ 自己評価に同じ。 ・ 基礎を重視して小テストをこまめにおこなうなどして学力を着実に向上させた。今後は今まで以上に職員間での情報共有に努め、組織的な指導力をさらに向上させてほしい。	評価 A

令和6年度

地歴・公民科

年間実施記録

実施計画	重点目標	1. 大学入試に対応できる知識・技能、および思考力・表現力を伸張させる授業を展開する。また、学説の紹介等で知的好奇心を喚起する。 2. 「総合」科目、「各探究科目」、「公共」の授業モデルを深化させる。	
	現 状	1. 生徒の知的好奇心を満たし、思考力が育まれる授業展開を多角的に追究していく必要がある。 2. 新科目の授業展開および評価について、基礎モデルができつつある。	
	具 体 的 な 目 標	・大学入試研究などを充実させ生徒の意欲をさらに喚起するとともに、将来の生き方を模索できるような授業展開を目指す。 ・新科目において、事象を多角的に考察させ、課題を追究し解決するための構想や議論など、活動を重視した授業を展開する。	
	目標達成のための方策	・ICTの活用や最新の学説、時事問題等の紹介などにより事象を多角的に捉えさせる。 ・対話や議論などを通して事象を体系化していく能力を育成する。 ・授業改善のための情報共有を日常的に行う。秋田高校の授業モデルを科全体で作り上げていくために、各授業の情報交換を定期的に行う。	
実施内容	具 体 的 な 取 組 状 況	・思考力・判断力の向上につながるように、考查問題で資料の読み取り等を積極的に扱った。 ・「地理総合」・「歴史総合」及び「公共」では、思考力を高めるための「問い」を中心とする授業を展開した。 ・電子黒板による画像・動画資料提示とともにプリントの内容や形式の見直しを適宜行い、効率的な学習に取り組んだ。	
	達 成 状 況	・生徒の興味関心が高まるように、主発問を工夫したことで、思考力の育成を実感できた。 ・観点別評価を深化させ、評価モデルを構築することができた。 ・新課程入試の初年度だったが、先を見越した授業計画を推進できた。	評 価 A
次年度の改善策		・授業の進度を十分に意識し工夫しながら、各科目を進め、共通テストに向けた基礎力を身に付けさせる。 ・個々が授業改善に積極的に取り組み、効率的に思考・判断力の育成と知識の蓄積を並立させていく。 ・共通テストの「歴史総合」の扱いについて、今回の共テを受けて、修正・工夫を加えていく。	
学校関係者評価		意 見 ・自己評価に同じ。 ・特に理系では例年進度の確保に苦勞するなか、今年度は45分授業でさらに大変だったと思われるが、新課程入試初年度にしっかり対応して共通テストで一定の成果を残した。 ・個々の授業改善にととまらず、授業の互見の機会を増やすなどして教科全体の指導力向上に努めてほしい。	評 価 A

令和6年度

数学科

年間実施記録

実施計画	重点目標	1. 授業を通して数学に対する興味・関心を高め、他者と協働し、主体的に課題を解決する能力の育成を図る。 2. 進路実現のために数学の学力の向上を目指す。		
	現 状	・個人として授業での発問やグループ活動、課題の出し方を工夫するなど授業改善に取り組んでいるが、さらに教員間での連携を密にし、生徒の主体性を育むために改善を図る必要がある。 ・大学の選抜方法を考慮しながら個別試験への対応について、組織的に取り組む必要がある。 ・文系生徒全体では、数学が得点源となっていない現状がある。		
	具体的な目標	・様々な授業方法を研究し、実践することで、効果的な授業改善を行う。 ・基礎・基本事項を定着させるための方策を講じ、さらに難関レベルの大学入試に対応できる応用力を身に付けさせる。 ・特に文系において、習熟度別にきめ細かに指導し、意欲を喚起する。		
	目標達成のための方策	・共通テストに向けて、低学年次からの体系的な指導を構築する。 ・ICTを活用した授業方法の共有、習熟度や個別指導などの充実、課題の出し方、各種テストの仕方を工夫する。 ・難関大レベルの指導を計画的に実施する。 ・習熟度別の指導を積極的に行いながら、適切なレベルの教材等を用いて意欲を高める。		
実施内容	具体的な取組状況	・日常の授業において適宜 ICT を活用し、授業改善に努めた。 ・基礎学力の向上を目指し、週間テスト、確認テスト、C1 グランプリを実施した。 ・授業内での入試問題演習で応用力育成、TLC・THC を通して上位者対策を行った。 ・2, 3 年生において習熟度別にクラス分けを行い、演習の難易度に差をつけ理解を図った。		
	達成状況	・授業改善と ICT の活用を積極的に行い、習熟に応じた指導を実践することができた。 ・各種テストにより、基礎・基本の徹底が図ることができた。 ・THC や TLC、冠模試について、実情に応じた解説を行うことで、理解を促すことができた。	評価	A
次年度の改善策		・難関大志望者に対する指導、意識付けは行えているが、中位層から下位層に対する手立てを講じなければ本校における共通テストの目標は達成できない。特に文系の指導の見直しを図る。 ・意欲的な学習に結びつける授業内での仕掛けを充実させ、科内の連携の充実を図る必要がある。		
学校関係者評価	意見	・自己評価に同じ。 ・今まで以上に職員間での情報共有に努め、組織的な指導力を向上させてほしい。苦手意識のある生徒へのフォローと中・下位層の指導の充実を期待する。		評価
				A

令和6年度

理科

年間実施記録

実施計画	重点目標	1. 授業を通して、自然科学に関する知的好奇心を高め、主体的に学習する生徒を育てる。 2. 実験観察を効果的に実施するとともに、ICTの活用を図った授業改善を通して、自然科学を探究的に理解する学習につなげる。	
	現 状	1. 自然科学に関する興味関心はもっているが、疑問を思考につなげ、主体的に学習する生徒が必ずしも多くない。 2. 今年度から全学年の学習指導要領が統一されることになった。45分授業の充実や観点別評価を生かした学力の伸長に取り組む必要がある。	
	具体的な目標	・ 実験観察を計画的に実施するとともに、ICTの活用を通じた授業改善を図り、生徒の自然科学に対する知的好奇心を高める。 ・ 問題演習への取組状況を定期的に確認し、演習を通じた自然科学の本質の理解につなげ、生徒の学力充実を図る。	
	目標達成のための方策	・ 授業の相互参観を通して、生徒の主体的な学習につなげる取組について、科内で共有し各自の授業改善に取り入れる。 ・ 観点別評価を生かした学力の充実に向けて、実験観察や問題演習の評価の在り方について、一層の工夫改善を図る。 ・ 45分授業体制の中でどのようにして生徒の学力向上を目指すかを科内で検討し、効果的な運用の確立を目指す。	
実施内容	具体的な取組状況	・ 前期、後期の校内授業研究会（生物、化学）、中堅教諭等資質向上研修（物理）などを通して、実験観察やICTの活用を通じた授業改善を図った。 ・ 教科打合せやチャットを活用した情報共有を通して、観点別評価の改善や、学力向上につながる問題演習について、共通理解を深められるようにした。	
	達成状況	・ 授業アンケートの評価は、前期・後期とも言語活動とコミュニケーションの項目以外は9割以上が肯定的な意見である。グループワークや双方向のコミュニケーションについては今後も改善を図りたい。 ・ 今年度から3学年全てで観点別評価の実施となったが、実験観察や問題演習の評価のあり方について、一層の工夫改善を図る必要がある。 ・ 45分授業では実験において時間不足となることが多く、今後さらに内容の精選や実施方法の工夫が必要である。	評価 B
次年度の改善策		・ 観点別評価を生かした学力の充実について、科内でさらに研究を重ねる必要がある。また、45分授業における実験・観察の効果的な実施方法についてもさらに研究を進める必要がある。	
学校関係者評価	意見	・ 自己評価に同じ。 ・ 年間実施記録の記述が分かりやすく、妥当性がある記録書として機能している。	評価
			B

令和6年度

英語科

年間実施記録

実施計画	重点目標	1. 進路志望達成のための指導法を研究し、実施する。 2. 実践的コミュニケーション能力の伸長を図る。		
	現 状	1. 上位者から下位者まで幅広い成績分布である。 2. 分野により各種試験の得点率に差が生じている。		
	具 体 的 な 目 標	- 生徒の学力に応じて適切な学習指導を行う。 - 学習状況や成績の推移を的確に把握し、臨機応変な対応を行う。 - 自律的に学ぶ姿勢を養う指導法の研究を行う。		
	目標達成のための方策	- 多様な生徒に対してきめ細やかな指導を継続的に行う。 - 各種試験の結果を迅速に分析し、臨機応変に指導計画を見直す。 - ペアワーク、グループワーク、ICT の活用等多様なアプローチを通じて自らの意見を発信し、表現力を高める。		
実施内容	具 体 的 な 取 組 状 況	- 上位層には自律的に学習を進める手立てについて支援し、中・下位層には面談も活用し授業内容の理解と基礎力の定着を促す取組を継続した。 - 各種テスト・模試結果の分析を多角的に行い、3年間を見通した指導の在り方をもとに課題や講座の内容を検討し、改善を図った。 - 研究授業での指導法の共有や、授業での言語活動の充実とともに、パフォーマンステストの実施や継続的な英作文添削、授業内外での ICT 活用を通して、論理的に英語で表現する機会を設けた。		
	達 成 状 況	- 全学年において、語彙や文法の定着を徹底し、段階に応じた基礎力の確立と受験体制への取組に繋げていくことができた。 - テスト・模試結果の分析を速やかに行い、得点率の低い分野について、過年度や他学年での取組を共有しながら、授業や講座等で底上げを図ることができた。 - 言語活動の充実により、発信力・表現力を向上させることができた。	評 価	A
次年度の改善策		- 基礎・基本を定着させる取組を継続する。 - 生徒の知的好奇心を刺激し、思考力・判断力・表現力を高める学習活動を継続する。 - 入試の動向や ICT の活用について、科内で情報共有と研修に努める。		
学校関係者評価	意 見	- 自己評価に同じ。 - データ分析に基づく的確な指導で成果を上げた。 - 今後は今まで以上に職員間での情報共有に努め、組織的な指導力をさらに向上させてほしい。		評 価
				A

令和6年度

保健体育科

年間実施記録

実施計画	重点目標	生涯にわたって健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現する資質・能力を育成する。	
	現 状	(1)他者と協働して行うグループ協議が苦手な生徒もいるので、どのような支援ができるか検討しなければならない。 (2)今年度から45分授業ということで、体育実技においては限られた時間内で高い運動量を確保するための工夫が必要である。	
	具 体 的 な 目 標	・他者と協働して課題を協議したり、グループで問題解決を図ったりすることができるようにする。→(1) ・年間を通じて、高い運動量で主体的に活動することができるようにする。(2)	
	目標達成のための方策	・生徒間でICTを活用し、グループで協議したり問題解決を図ったりできるよう指導する。→(1) ・体育学習ノートを活用し、課題の発見と解決について毎時間記録を残すよう指導する。→(1) ・生徒全員が一定の運動量を確保するため、種目選択や取り組み方を工夫するとともに、種目に応じて運動強度の高い活動を選択実施させる。→(2)	
実施内容	具 体 的 な 取 組 状 況	【体育】 ・授業終わりの体育学習ノート記入の際に、仲間とゲームについて振り返るなど、協議の時間を設定した。→(1) ・「バスケットボール」「バレーボール」では、生徒の技能レベルに応じてゲーム形式の活動を、「バドミントン」「卓球」では、限られたスペースで選択者全員が運動量を確保できるようラリー形式の活動を励行した。→(2) 【保健】 ・Chromebookを活用し、課題解決や意見交換を積極的行った。→(1)	
	達 成 状 況	【体育】 ・ゲーム戦術について仲間と協議を重ねたことで理解度が深まり、集団的技能の向上に伴って1人1人の運動量も増加した。→(1)(2) 【保健】 ・課題レポートの提出をChromebookで行ったり、スプレッドシート等を活用したりして意見交換を行った。→(1)	評 価 B
次年度の改善策		【体育】 ・種目によっては施設の許容を超える生徒数が選択希望することがあるため、選択種目を決める際に新たなルールを作るなどして、各種目で適正な人数に収まるよう工夫していきたい。 【保健】 ・Chromebookを活用する際に、Google Classroomのみならず新たなアプリケーションの活用も模索していきたい。	
学校関係者評価	意 見	・自己評価に同じ。 ・年間実施記録の記述が分かりやすく、妥当性がある記録書として機能している。	評 価
			B

令和6年度

芸術科

年間実施記録

実施計画	重点目標	1. 表現領域に応じた適切な課題設定により、感性を高め、創造的な表現と鑑賞の能力を伸ばす。 2. キャリア教育的視点で個々の生き方を問いながら、豊かな人間性を育む授業を目指す。		
	現 状	1. 興味・関心、能力の高い生徒は多いが、作品等について互いに批評し合い、感じ取ったことを共有し合う意識は低い。 2. 芸術の学びを通して、自らの生き方や芸術との関わり等について考える視点をもつ生徒は比較的少ない。		
	具 体 的 な 目 標	・ 芸術的な諸能力の伸長を促す。 ・ 発展的な題材・教材を精選する。 ・ 芸術の諸能力を伸ばしながら自己を問い、豊かな人間性を育む。		
	目標達成のための方策	・ より発展的な内容を扱うことで、生徒の知的好奇心を喚起しつつ、個に応じた諸能力の伸長を図る。 ・ 課題意識や想いを生徒間で共有し、試行錯誤を繰り返しながら解決に向けて取り組めるよう、題材を精選する。 ・ 効果的に I C T 機器を活用しながら、様々な作品に対する鑑賞能力の伸長を図り、生徒自ら考えながら表現の向上に結びつける指導を工夫する。		
実施内容	具 体 的 な 取 組 状 況	・ 演奏や制作において、能力の個人差を考慮して基礎的事項を踏まえた上で、段階的に難易度の高い表現技術に挑戦させるなどして、発展的に取り組める題材や曲目、授業展開の工夫をした。 ・ ペアワーク、グループ活動、発表などの場面を設定し、生徒間での課題の共有や意見交換ができる機会を作り、より深い思考を促した。 ・ 教員が直接示す技術指導の他、表現技法の提示、鑑賞活動、活動の振り返りなどに Chromebook や電子黒板等などの I C T 機器や音響機器を活用した。		評 価
	達 成 状 況	・ 発展的な題材や曲目、授業展開の工夫をしたことで、表現の幅が広がりや能力の向上が見られ、生徒の知的好奇心を喚起することができた。 ・ 自己理解や他者の思考への共感ができるようになり、表現と鑑賞の活動を通して芸術文化を尊重する態度を養うことができた。 ・ ICT 機器を効果的に活用することで、技法の理解、生徒の意見やアイデア等の可視化、主体的な取組への支援などが充実した。		B
	次 年 度 の 改 善 策	・ 観点別評価の内容を次年度もさらに吟味しながら、表現および鑑賞活動を年間指導にバランスよく取り入れ、生徒の能力を向上させる題材の精選を継続して行う。 ・ より高い学習効果を得るために ICT 機器を活用・検証し、授業展開の工夫を図る。		
学校関係者評価	意見	・ 自己評価に同じ。 ・ 年間実施記録の記述が分かりやすく、妥当性がある記録書として機能している。 ・ 書き方として、できたことだけでなく課題を残した点が付記されるとなお良かった。		評 価
				B

令和6年度

家庭科

年間実施記録

実施計画	重点目標	1. 家族や家庭、衣食住、消費や環境などに係る生活事象を、協力・協働、健康・快適・安全、生活文化の継承・創造、持続可能な社会の構築等の視点で捉え、よりよい生活を営むために工夫できるようにする。 2. よりよい社会の構築に向けて、男女が協力して主体的に家庭や地域の生活を創造する資質・能力を育成する。	
	現 状	1. 学習内容を自分に必要なものと認識し、よりよい生活を営むために自立度を向上させたいという意欲が高い反面、多忙で身の回りのことを保護者に依存して生活している生徒が見られる。 2. よりよい社会の構築に貢献したいとする意欲が高い生徒が多い。	
	具 体 的 な 目 標	・学習内容を自分の実際の生活や人生に引き寄せて考えられるように、体験学習の機会を確保し、言語活動により深化を図る。 ・ホームプロジェクト等により、自分自身の生活課題を把握させ、改善・解決を図らせるようにする。	
	目標達成のための方策	・Webコンテンツ等ICTを効果的に活用し、実践的な学びを工夫する。 ・探究型・課題解決型の授業実践を工夫する。	
実施内容	具 体 的 な 取 組 状 況	・ロールプレイやケーススタディ、ウェブコンテンツを活用したシミュレーション等により、生活事象を自分事としてイメージできるよう工夫した。 ・現在だけでなく将来の生活にも展望を持たせることができるよう、全ての単元においてライフステージごとの課題を意識させるよう工夫した。	
	達 成 状 況	・生徒による学習の振り返りの記述内容から、よりよく生活するために学習内容を実践したり、家族に共有したりしている様子が見ええた。 ・ホームプロジェクトにより、自身はもちろん家族や祖父母の生活の問題を解決する能力や実践的な態度を育成することができた。	評 価 A
次年度の改善策		・今年度は、学習内容をより精選するために中学校との系統性を意識した授業実践を工夫したが、既習・未習事項に中学校間で差異が感じられたので、次年度は事前に実態調査をして現状を把握したい。 ・自分の生活実践が社会に影響していくことをより強く意識させたい。	
学校関係者評価		意 見 ・自己評価に同じ。 ・これからも多様なコンテンツを活用し、学習内容を自分事としてイメージさせる取組を継続してほしい。	評 価 A

令和6年度

情報科

年間実施記録

実施計画	重点目標	1. 「情報リテラシー」「情報モラル」を身に付け、さらに「ネットワーク」「プログラミング」等の知識を身に付け情報を活用する能力を高める。 2. 共通テスト「情報Ⅰ」に対応できる学力を身に付けることを意識した授業をし、多くの問題演習を通して学力を高める。	
	現 状	1. 情報という教科全般について知識やスキル、意識に個人差がある。 2. 共通テストに出題される範囲が多岐に渡り、教科書にない内容も学習範囲になっていることもある。	
	具 体 的 な 目 標	・実習や演習を多く取り入れて情報リテラシーや基本となる知識を高め、情報に興味を持ち、さらに活用する能力を高める。 ・共通テストに対応するための学習範囲を確認し、抜けや漏れがないように授業を展開し、問題演習により共通テストに対応できる学力を身に付ける。	
	目標達成のための方策	・効果的な実習・演習について実施例を研究・実践し本校の実態に合わせた効果的なものにしていく。 ・共通テストに十分に対応できるよう教科書以外の教材も取り入れる。また出題が予想される問題演習をし、生徒の理解度を確認する。	
実施内容	具 体 的 な 取 組 状 況	・教科書では無かったが、共通テストに出題される可能性がある分野を授業で扱い、履修範囲に抜けがないことに努めた。 ・全体に「プログラミング」分野が弱い傾向にあるので、授業でプログラミングの問題を多く解かせることを意識した。 ・実習を多く取り入れ、体験することで理解を深める工夫をした。	
	達 成 状 況	・第1回目の共通テスト「情報」であったため、どこまでの範囲が必要とされるかわからなかったが、模試等を参考に出題範囲をほぼカバーすることができた。 ・授業で演習を繰り返すことにより、生徒に基本事項を定着させることはできた。 ・「プログラミング」は生徒によって個人差があり、今後課題が残った。	評 価 A
次年度の改善策		・教科書を変えるのでより共通テストに十分対応できる授業内容にする。 ・「プログラミング」分野の習得をより細やかに行う。 ・「情報Ⅰ」の先にある内容についても、生徒が興味を持てる授業を目指す。	
学校関係者評価	意 見	・自己評価に同じ。 ・共通テストの試験科目となった初年度で、指導に際しては苦労も多かったと推察するが、受験者の自己採点結果は優秀であった。指導体制の確立に努めてほしい。	評 価
			A

令和6年度

総務部

年間実施記録

実施計画	重点目標	1. メール配信システム「すぐーる」のガイドラインを策定し、効果的な運用を図る。 2. P T A会則や各種規定、マニュアルを見直す。	
	現 状	1. 主として、学校からの緊急連絡用としてのみ、運用されている。 2 p. 適切に年度更新が行われていないものが、複数見られる。	
	具 体 的 な 目 標	1. 必要に応じて、速やかに保護者と情報共有を図るためのツールとしての運用方法について検討する。 2. P T A会則や教育課程の変更に伴い、内容を見直すとともに、文言や表現等も精査する。	
	目標達成のための方策	1. 関係各所と連携しながら、「チャネル（グループ）運用者」の対象や運用する際の規程について検討する。 2. 各種規程やマニュアル等において、年度更新に係る項目は、特に重点的に確認を行う。	
実施内容	具 体 的 な 取 組 状 況	1. メール配信システム「すぐーる」のガイドラインを策定し、「チャネル（グループ）運用者」の対象や運用する際の規程を設けた。 2. P T A会則や各種規定、マニュアルを見直し、必要に応じて改訂に着手した。	
	達 成 状 況	1. 運用者の対象を広げたことにより、各学年・分掌から重要かつ必要な情報が適時配信され、保護者との速やかな情報共有が図られている。 2. 年次更新に係る項目等を重点的に見直し、必要に応じて修正作業を行った。指導主事訪問での指摘を受けて、「危機管理マニュアル」については、次年度に向けて現在改訂作業中である。	評 価 A
次年度の改善策		1. 生徒・保護者の登録確認に時間がかかっているため、入学の時点で確実に登録を促していきたい。 2. 年度更新に係る項目だけでなく、時勢に相応しいものになっているか、複数の視点を取り入れながら定期的に見直しを図っていきたい。	
学校関係者評価	意 見	・ 自己評価に同じ。 ・ 年間実施記録の記述の仕方が分かりやすい。	評 価
			A

令和6年度

教務部

年間実施記録

実施計画	重点目標	1. 新教育課程、観点別評価、指導要録の新様式について、各教科・各学年の対応を徹底し、45分×7コマの日課についても検証を進める。 2. 校務支援システムの運用について、改善を図る。デジタル採点システムの導入・運用を進める。	
	現 状	1. 新教育課程3年目となり、3学年すべてが新課程に移行となった。また、45分×7コマの日課が始まった。 2. 出席管理、成績処理、指導要録作成について、校務支援システムの使い方に不明な点が多い。デジタル採点システムを新規導入する。	
	具体的な目標	1. 各教科の単位数や、定期考査の作問、課題や小テストの扱いなど、評価方法について検証し、情報共有を図る。 2. 校務支援システムの使い方について、手順や方法を周知し、適切なデータの管理や処理を行う。考査等でデジタル採点システムの運用を進める。	
	目標達成のための方策	1. 各教科・学年・分掌と連携し、職員間の情報共有を図る。また、先進的な取組をしている他校の実践例等も参考にしながら改善点を探る。 2. ICT推進部と連携して研修会を実施するなどして、職員全員が的確に利用できるような環境を整え、情報共有を図る。	
実施内容	具体的な取組状況	校務支援システムの運用については各種文書の新様式への対応を進めるために各学年の教務の先生にご尽力いただいた。デジタル採点システムについてはICT推進部と連携して、教務部で研修会を実施し、定期考査の前後でも情報提供ができた。 また、金曜日7校時の運用について、教育課程委員会と連携して協議を重ねた。	
	達成状況	新校務支援システムによる各種文書の新様式への対応やデジタル採点システムについて、教務部から情報提供やマニュアルの提示等ができたため、成績処理をはじめとする今後の業務について、形式を確立することができた。 また、教育課程委員会と連携して、次年度の金曜日7校時の活用について、方向性を定めることができた。	評価 A
次年度の改善策		今後も校務支援システムやデジタル採点システムの利活用について、改善を図り、業務の負担軽減に努めたい。また、総務部と連携して「すぐる」による通知票の発送（配信）も検討していきたい。	
学校関係者評価		意見 ・自己評価に同じ。 ・年間実施記録の記述の仕方が分かりやすい。 ・45分授業やデジタル採点など新たな取組については、より効果的な運用方法の研究を期待する。	評価 A

令和6年度

進路指導部

年間実施記録

実施計画	重点目標	1. 生徒の進路意識の高揚と進路実現のための効果的な支援となるよう、昨年度までの事業内容について見直しを図りつつ進路事業を行う。 2. 生徒を取り巻く状況が変化する中でも、進路目標の達成を継続的に実現していくため、各教科・学年と連携しながら学力の向上をはかる。	
	現 状	1. 入試を取り巻く環境の変化等により、進路事業の増加・肥大化が起こっており、事業の見直しや年間計画の再構築などを行う必要が生じている。 2. 難関大学の入試難易度の上昇や、入学段階の生徒の学力の変化、新課程における学習負担の増加等により、学力向上策に改善が必要になっている。	
	具 体 的 な 目 標	・生徒の現状や受験環境の変化等に関する情報を収集し、職員間で共有する。 ・入試を取り巻く現状や将来の動向を考慮に入れつつ、進路事業の目標や方法を見直し、より効果を実感できる取り組みとする。 ・全体の学力向上と、難関大対応の学力形成のための指導実践・改善を推進する。	
	目標達成のための方策	・生徒の学力や志望状況、受験環境の変化等に関する情報を、学年部、各教科、外部機関等から収集し、職員間で共有する。 ・それぞれの進路事業の見直しや、年間計画の検討を行う。 ・授業や講座、添削、学習方法指導等の実践や改善を推進する。	
実施内容	具 体 的 な 取 組 状 況	・生徒の学力状況や生徒面談の内容、進路関係の協議会や説明会等での情報を積極的に収集するとともに、classroomや職員会議等を通じて全教員で共有した。 ・実施が困難な事業や、時代に合わなくなってきた事業の見直しを行い、一部は今年度から実施した。加えて、次年度の年間計画の見直しも行っている。 ・冬季講座の実施形態の変更、難関大講座の改善、教員の授業研修講座への参加の促進を行った。	
	達 成 状 況	・教員間で情報を即時に共有したことで、生徒に主体的な行動を促すような日常の声かけや面談の実施に役立てることができた。 ・事業の見直しにより、入試の現状や生徒の状況に合わせた形で事業を継続的に行っていく態勢作りが進んできている。 ・生徒の現状に即した形になるように講座の形態を改善することができた。教員の授業研修は新課程入試の研修として有益だった。	評 価 A
次年度の改善策		・生徒の志望進路を実現するための学力向上に向けて、授業改善に加え、生徒の学習方法に関する指導について、研究・実践を行う。 ・学年部や教科と連携し、キャリア形成や大学・学問分野、入試動向に関わる情報の生徒への提供をさらに充実させる。	
学校関係者評価	意 見	・自己評価に同じ。 ・年間実施記録から、進路事業の見直しや年間計画の検討が積極的になされたことが読み取れた。これまでの実績・成果をふまえつつ、新たな視点で変更、改善を加えて促進していこうとする前向きな姿勢を高く評価したい。	評 価
			A

令和6年度

生徒指導部

年間実施記録

実施計画	重点目標	・交通事故の未然防止	
	現 状	・令和5年度に生徒指導部に報告のあった交通事故件数は13件とほぼ例年並み。※H30-13件、R1-19件、R2-10件、R3-13件、R4-11件 やはり1年生が過半数の7件。令和5年度は、自転車走行中に他の車両との接触が多かったのが特徴。	
	具体的な目標	・交通事故件数5件以内。重大事故の未然防止。 ・自転車乗車に際してのルール、交通社会でのルール遵守の姿勢を育む。 ・生徒会執行部を中心に生徒自らが交通事故防止へ取り組む姿勢の醸成。	
	目標達成のための方策	・Google クラスルーム及び生徒指導部報「うぐいす坂」を効果的に活用し、機を逃さずに交通安全を呼びかける。 ・関係機関（秋田東警察署、少年保護育成委員会、PTA、生徒会）の協力を得ての年4回の敬天週間の実施。 ・生徒会企画による交通安全教室への支援。	
実施内容	具体的な取組状況	・Google クラスルーム、及び生徒指導部報「うぐいす坂」を通して出来る限りタイムリーな注意喚起を行った。 ・例年通り年間4回の敬天週間を実施。 ・生徒会による交通安全教室は今年も好評だった。	
	達成状況	・交通事故の報告件数は14件とほぼ例年並みだったが、今年度は1年生の事故が10件と多いことが残念であった。 ・2・3年生については概ね交通ルール遵守の姿勢は育めている。	評価 B
次年度の改善策		・今年度の事故を分析（特徴、時期や状況など）し、よりタイムリーな注意喚起を行う。特に新入生には強く注意喚起が必要。	
学校関係者評価		意見 ・事故件数を減らすためには生徒への心に響く指導と家庭の協力を得るためのさらなる呼びかけが必要である。今後は、あえて重点目標に掲げなくとも交通事故の未然防止は当然継続して指導にあたるべきである。そろそろ重点目標を見直して、生徒や保護者が「アンケート」でも求めている基本的な生活習慣（遅刻、整容、挨拶等、いじめや不登校対策）の改善を目指した指導を徹底すべく、全校で取り組んではどうか。	評価 B

令和6年度 特別活動部 年間実施記録

実施計画	重点目標	1. 自主的、実践的な集団活動を通して、人間としての在り方生き方についての自覚を深め、自己実現を図ろうとする態度を養う。		
	現 状	1. 多くの生徒が「文武両道」「自主自律」の精神を実現させるべく前向きに部活動や同好会活動に取り組んでいる。 2. 学業と部活動との両立に苦しんでいる生徒が多い。		
	具体的な目標	1. 各分掌と協力し、キャリア教育的視点に立ちながら「文武両道」「自主自律」を体現するための支援の充実を図り、特別活動を通じて人間性豊かな生徒を育成する。		
	目標達成のための方策	・部活動に取り組みやすい環境作りに努めるとともに、学業との両立を図るため、適切な部活動が行われるよう促す。 ・LHRの時間を効果的に運用する。		
実施内容	具体的な取組状況	1. 新入生の部活動入部時に正しく各部の活動内容や活動状況を伝え、保護者にも知らせるため「部活動概況」を各部から作成してもらい、入部希望者に配布されるように勧めた。 2. 第6回「北雄の翼」は、35名が参加し、米国で実施された。		
	達成状況	・運動部では7部が全国総体に、文化部でも7部が全国大会に出場し、それぞれの大会で活躍を見せた。 ・LHRの時数を確保し、進路学習を含め多岐に渡る活動を行うことができた。 ・北雄の翼参加生徒は、各種プログラムを通じて世界的な視野で物事を捉え、将来の進路選択の幅を広げる機会を得ることができた。	評価	B
次年度の改善策		・各部活動の大会結果等について、学校HP上に掲載して情報の発信に努めるとともに、次年度に向けてその掲載内容・更新時期を検討する。 ・来年度も引き続き米国で実施される予定の「北雄の翼」において、参加した生徒にとって有意義な研修となるように準備を進める。		
学校関係者評価	意見	・自己評価に同じ。 ・今年は各分野で生徒が大活躍した。今後も期待したい。 ・「北雄の翼」は渡米しない生徒への還元方法も工夫してほしい。		評価
				B

令和6年度 図書部 年間実施記録

実施計画	重点目標	1. 図書館及び図書閲覧コーナーの環境整備を促進し、生徒や職員の利用に資する。 2. 図書館報や図書便りを発行し、図書館と図書館設置の書籍について情報発信することで、読書に対する意欲を喚起する。		
	現 状	1. 現在の図書館は学習室として重要な役割を担っているが、読書の場としての機能は十分に果たしていない。図書閲覧コーナーを本への興味を喚起し図書を気軽に借りられる場として整備してきているが、生徒のより一層の利用を促したい。 2. 年1回の図書館報の発行に加えて、図書館の classroom を通じて図書委員による情報発信ができるよう考えている。		
	具体的な目標	・新刊図書等の情報提供を充実させ図書閲覧コーナーの利用者を増やす。 ・図書委員による本の紹介等によって、図書館及び書籍に関する関心を高める。		
	目標達成のための方策	・図書閲覧コーナーで、POP等を通じて定期的に新刊図書や推薦図書を紹介する。 ・「図書館」のクラスルームを通じて、本の紹介等、図書委員による情報発信を行う。		
実施内容	具体的な取組状況	・他校とのPOP交流を活用し、図書閲覧コーナーで推薦図書等の紹介を行った。 ・図書館報「たろんぺ」の発行に加えて、図書館や閲覧コーナーで「本屋大賞歴代ノミネート作品紹介」等の展示を数回行った。		
	達成状況	・図書閲覧コーナーの認知度が上がり、利用者も増えた。 ・秋高祭での古本市や、他校とのPOP交流、展示コーナーの設置等、図書委員が自ら企画し実行する機会を増やすことができた。 ・図書委員による発信等を企画したが「図書館」のクラスルームを有効に活用することができなかった。		評価 B
次年度の改善策		・推薦図書の紹介や自主企画等、図書委員の意欲を活かした活動を一層充実させる。 ・図書委員が「図書館」クラスルームを通じて発信する機会をつくる。 ・新書等、生徒の関心や必要性に応じた図書の設置を行う。図書館と閲覧コーナーの利用について、両者の特徴を活かした図書の配置を行う。		
学校関係者評価	意見	・自己評価に同じ。 ・年間実施記録からは、図書委員が様々な取組をして頑張っている様子がうかがえる。クラスルームの効果的な活用方法の研究も期待したい。		評価 B

令和6年度

企画研修部

年間実施記録

実施計画	重点目標	1. 教職員個々のスキルアップと生徒に還元される授業改善を目指す。 2. 校務の効率化を目指した業務改善をし、全職員が活用できるようにする。	
	現 状	1. 授業改善・業務改善におけるICT活用は着実に進んでいるが、職員間での共有はまだ十分でなく、リテラシー格差も生じている。 2. 授業改善・業務改善のPDCAサイクルは確立されたが、目標達成までのスピード感のある実践、効率化や省力化には課題が残る。	
	具 体 的 な 目 標	・e-akita 事業とICT機器の活用について、職員間の意識共有およびリテラシー向上に努める。 ・校内授業研究会では、本校職員や外部関係者も交えて積極的な意見交換をしてよりよい授業改善を目指し、生徒への還元を図る。 ・業務改善のPDCAサイクルを回し、目標達成までのスピード化を図る。	
	目標達成のための方策	・ICT推進部をはじめ各分掌・学年とも連携を図り、授業や業務の改善に効果的にICTを活用するよう呼びかけ、各種情報提供を行う。 ・校内授業研究会では、前期・後期（公開）ともに、教科を越えた参観・協議を活発にし、授業改善を通して生徒への還元案を提出してもらう。 ・業務改善は、前期・後期でそれぞれ分掌の実施状況を把握し、全職員で共有して、改善目標達成まで協働し取り組むよう働きかける。	
実施内容	具 体 的 な 取 組 状 況	・前期・後期の二度にわたり校内授業参観期間を実施した。 ・後期の校内授業研究会では外部関係者の多数の参加を受けて実施できた。 ・生徒理解や業務の効率化を高めるため、校内研修会を複数回実施した。 ・学校評価会議を通して、今後業務改善すべき点を協議した。	
	達 成 状 況	・多くの先生方が自教科・他教科問わずに授業参観し、協議会に参加することで、授業改善の意識を高めることができた。 ・ICT推進部の協力を得て校内授業研究会を実施し、各協議会でgoogleを活用し効率的に進めることができた。 ・業務改善では、学校評価会議を通して来年度に向けて改善すべき課題をリストアップすることができた。	評 価 B
次年度の改善策		・授業の更なるICT活用を目指してICT推進部との連携を深める。 ・授業参観・研修会を充実させ、職員の指導力スキルアップに貢献する。 ・業務改善の見える化、スピード化で職員の負担を軽減する。	
学校関係者評価	意 見	・自己評価に同じ。 ・書き方として、できたことだけでなく課題を残した点が付記されるとなお良かった。 ・学校評価を単なる評価に終わらせず、次年度の改善に活かしてほしい。	評 価
			B

令和6年度 保健・教育相談部 年間実施記録

実施計画	重点目標	1. 環境美化を促進し学習環境整備を図る。 2. 心身両面にわたる健康の維持・増進を実現するための支援体制を充実させる。	
	現 状	1. 教室内の環境整備状況は概ね良好である。しかし、高所・廊下の壁や窓枠のカビ等、生徒による平常の清掃では清掃が行き届かない箇所がある。 2. 悩みを抱えた生徒が多く、悩みの内容も多様化してきている。保健室・SC利用生徒・保護者は年々増加傾向にある。	
	具体的な目標	1. 平常の清掃に加え、環境美化週間や長期休業前大清掃等を活用して、学習環境をより一層整備する。 2. 生徒等の悩み等が改善・解決できるように支援する。	
	目標達成のための方策	1. 大清掃等の重点目標を、実施時期等に応じて効果的に精選・設定する。 2. 生徒等個々の状況を関係者（SCを含む）が連携して適切に情報共有し、必要な支援を組織的に行う。年度当初の特別支援研修以外にも、必要があれば校内研修等の機会を設ける。	
実施内容	具体的な取組状況	1. 平常の清掃に加え、環境美化週間や大清掃等の際に重点目標を実施時期に応じて効果的に精選・設定することにより、短時間でも効果的に環境美化ができるよう工夫した。卒業式前日に大清掃の時間が確保されたことに伴い、例年2月末に実施している環境美化週間では、新しい取り組みとして壁の埃・カビ除去に重点的に取り組める予定である。 2. 例年通り、学年部や特別支援教育委員会・SC・SSWとも連携して、心身に問題を抱える生徒について共通理解を図るだけでなく、SC・SSWからの助言を担任・学年部で実践するなど、組織的支援の一助とすることができた。	
	達成状況	1. 上記1により、平常の環境美化に加え、特に卒業式や高校入試に向けて例年以上に丁寧に環境美化できる見込みである。 2. SC年間利用件数はR5-3月末85件に対しR6-12月末31件で、単純比較はできないが減少傾向である。保健室年間利用件数は前年12月比較で約100件増加したが、不登校傾向生徒が教室に向かう前に心身の状況を整えるために利用し、不登校解消の一助となったケースもある。 3. 職員対象救急救命講習（城東消防署）を実施することができた。	評価 A
次年度の改善策		1. 大体育館以外は老朽化に伴い経年劣化も多く見られるが、環境美化活動を通して、学び舎に対する生徒の愛着心もより強く育んでいきたい。 2. 心身の不調を訴える生徒に、次年度以降も継続的に早期対応していく。 3. 救急救命講習は次年度以降も実施方法を改善しながら継続していく。	
学校関係者評価	意見	・自己評価に同じ。	評価
		・年間実施記録の記述が分かりやすく、妥当性がある記録書として機能している。 ・SC・SSWと適切に連携できている。生徒理解・生徒支援のための研修は今後も継続してほしい。	A

令和6年度

ICT 推進部

年間実施記録

実施計画	重点目標	- Google Workspace, Chromebook, 電子黒板等による ICT 活用の促進を図る。 - 令和7年度から先行実施する生徒の個人端末持ち込み（BYOD）に関するガイドライン作りをし、スムーズな運用ができる体制を作る。 - 業務系サーバ、校務支援システム等の適正な管理・運営を行う。	
	現 状	- Google Workspace の導入により、学校全体で ICT 活用推進の環境作りは進んでおり、更なる積極的な活用と効果的な方法求められている。 - Chromebook の不具合が多数発生している。また職員がその対応に追われている。そのために BYOD 移行期間を今年度は行うこととしている。 - 職員間の情報共有や校務、授業での ICT 活用は進んできているが、全職員・生徒が十分に活用できるよう、さらにサポートが必要である。	
	具体的な目標	- ICT 推進部を中心に更なる ICT 活用による授業への活用と業務の効率化を探る。 - 令和7年度 BYOD 完全移行に向けてガイドラインを作成する。	
	目標達成のための方策	- 分掌打ち合わせ等を利用し、ICT 推進部内で情報交換を密にし、発信していく。 - 今年度の移行期間において発生する諸問題から今後起こりうる状況を把握し、ガイドライン案の見直しを繰り返して BYOD に対する環境を整備していく。 - 研修会を行い、職員への活用促進を促し業務全体の効率化を図る。	
実施内容	具体的な取組状況	- BYOD 移行期間に向けて移行期間版ガイドラインを作成し、生徒・保護者に公表した。また、体験入学時にも来年度から BYOD を開始することを参加者に連絡した。 - 学年ごとに BYOD の希望をとり、移行期間開始の準備を進めた。 - 校内での ICT 活用について、分掌部会等で情報交換をした。	
	達成状況	- BYOD 移行については、生徒の希望をとった後に問題がありそうなことに気づき、その後の導入が進められなかった。その後すでに導入している他県の状況を参考に改善案を検討し、来年度から BYOD 導入することに修正した。 「デジタル採点」等の新規事項に ICT 推進部が積極的に関わって進めた。	評価 B
次年度の改善策		- BYOD のスムーズな導入と問題点・活用状況等を整理して、ガイドラインの見直しを進める。 - ICT 推進部を中心に ICT 活用による授業への活用と業務の効率化のために積極的に研修会等に参加し、共有する。	
学校関係者評価	意見	- 自己評価に同じ。 - BYOD への円滑な移行をお願いしたい。	評価
			B

令和6年度

理数科

年間実施記録

実施計画	重点目標	1. 日常の学習活動や行事を通して、科学や数学における系統的な理解を深め、自分の考えを積極的に表現する能力と態度を育成する。 2. 理数科行事や理数探究の充実を図り、校内外の講座やセミナー、コンクールなどへの参加により、広い視野に立って意欲的に活躍できる人材育成を目指す。		
	現 状	1. 探究活動や各種行事は年々改善され、以前問題となっていた時間の不足も昨年度から週2コマ（今年度は2.5コマ）となり充実した活動ができるようになった。 2. つくば研修や様々なコンクール等の校外行事も従来通り実施できるようになってきている。各種講義・実験などの理数科行事には満足している生徒も多く、理数探究においては、自立した研究者の育成を目指した指導がなされている。		
	具 体 的 な 目 標	・理数科は理数に関する専門教育を行う学科であるという認識のもと、担当する教員は高校レベルを超えた授業や研究を通し、生徒の自然科学に関する高い教養や知的好奇心を高められるよう計画的な指導を行う。 ・2年生の理数探究の時間では、体系的な研究活動を通して、全体のレベルアップを図るとともに、個々の生徒の思考力の深化やプレゼン能力の向上を目指す。		
	目標達成のための方策	・ICTやGoogle Classroomを授業や研究活動に積極的に導入することにより、一人一人の生徒の情報活用能力の向上を目指す。 ・理数探究では、計画書の編集などにおける生徒同士の協働を推進し、最終的な発表の場であるつくば研修に向け、充実した研究への支援を行う。また、研究成果を外部団体などが主催するコンテスト等に積極的に参加させる。		
実施内容	具 体 的 な 取 組 状 況	・理数科合同研修会では他校との情報交換を通して探究活動内容の充実を図った。 ・博士号教員や大学教員による専門的な内容の講座を実施した。 ・理数探究発表会を通して、研究内容の効果的なプレゼン方法を学ぶことができた。		
	達 成 状 況	・理数探究の成果として外部コンテストで多くの賞を獲得 ① 日本学生科学賞において3G植物班が審査委員長賞を受賞 ② 坊ちゃん科学賞において3G数学情報班が優良賞、植物班が佳作受賞 ③ 第59回秋田県児童・生徒理科研究発表大会において2G化学班が最優秀賞を受賞、来年度の全国高等学校総合文化祭への出場権を得た。 ・つくば研修において様々な研究施設を見学するとともに、理数探究の成果を「つくばScience Edge」において発表した。		評 価 B
次年度の改善策		・理数探究のさらなる充実に向け、指導計画と評価方法の整備を行うとともに、各種大会・発表会への出場を計画的に実施する。 ・DX事業で購入する実験機器を効果的に活用し、理数探究のレベルアップを図る。		
学校関係者評価	意 見	・自己評価に同じ。優秀な成果だったのでAでも良かったように感じた。		評 価
				B

授業アンケート 比較資料〔授業〕

		I 授業に対する意欲・姿勢	II 説明や指示の内容		III 授業構成・進度		IV 興味・関心	V 学力向上		VI 言語活動とコミュニケーション	
1 年		1. 私は、授業に集中し意欲的に取り組んでいる。	1. 先生の説明や指示・問いかけは、明確である。	2. 先生の板書や資料（プリント・視聴覚教材等）は見やすい。	1. 授業目標が明示され、それが達成される構成になっている。	2. 授業進度は適切である。	1. 興味・関心をかきたてる授業内容である。	1. 自身の進路目標と照らし、それ以上の学力レベルへの到達が期待できる授業である。	2. 週間テスト・確認テスト等は基礎力定着に有効である。	1. グループワークや発表・説明等の言語活動の機会がある。	2. 生徒と教師による双方向のコミュニケーションが図られている。
前期	とてもそう思う	54.5%	65.9%	66.5%	54.7%	60.4%	53.8%	54.8%	60.9%	47.1%	54.7%
	そう思う	41.2%	32.0%	31.0%	38.3%	36.2%	39.1%	40.6%	34.1%	37.4%	38.1%
	そう思わない	4.3%	2.0%	2.2%	6.6%	3.2%	6.8%	4.5%	4.4%	13.0%	6.6%
	全くそう思わない	0.0%	0.0%	0.2%	0.5%	0.3%	0.3%	0.2%	0.6%	2.4%	0.7%
後期	とてもそう思う	54.1%	63.3%	63.2%	55.1%	57.3%	52.5%	52.6%	60.5%	45.0%	51.2%
	そう思う	41.9%	34.8%	34.8%	39.6%	39.3%	40.9%	41.4%	35.5%	40.4%	42.6%
	そう思わない	3.8%	1.9%	1.7%	5.1%	3.0%	6.1%	5.4%	3.5%	12.4%	5.6%
	全くそう思わない	0.1%	0.0%	0.3%	0.2%	0.3%	0.6%	0.5%	0.5%	2.3%	0.6%
後期では、全体的に「とてもそう思う」「そう思う」がともに微減となっているが、全体的な肯定的な意見の割合は前期よりも増加している。高校生活に慣れて授業にも前向きに取り組めている様子がうかがわれる。一方で「言語活動の機会がある」の項目は「そう思わない」「全くそう思わない」の合計が一番高く、45分授業の中でどう言語活動を確保していくかが課題と思われる。											

		I 授業に対する意欲・姿勢	II 説明や指示の内容		III 授業構成・進度		IV 興味・関心	V 学力向上		VI 言語活動とコミュニケーション	
2 年		1. 私は、授業に集中し意欲的に取り組んでいる。	1. 先生の説明や指示・問いかけは、明確である。	2. 先生の板書や資料（プリント・視聴覚教材等）は見やすい。	1. 授業目標が明示され、それが達成される構成になっている。	2. 授業進度は適切である。	1. 興味・関心をかきたてる授業内容である。	1. 自身の進路目標と照らし、それ以上の学力レベルへの到達が期待できる授業である。	2. 週間テスト・確認テスト等は基礎力定着に有効である。	1. グループワークや発表・説明等の言語活動の機会がある。	2. 生徒と教師による双方向のコミュニケーションが図られている。
前期	とてもそう思う	54.6%	63.2%	62.3%	57.3%	61.4%	53.8%	56.7%	60.1%	53.6%	51.5%
	そう思う	42.2%	34.1%	33.3%	37.3%	33.8%	37.1%	36.9%	33.4%	35.3%	38.4%
	そう思わない	2.6%	2.3%	3.9%	5.0%	4.1%	8.2%	5.5%	5.4%	9.7%	9.0%
	全くそう思わない	0.7%	0.5%	0.4%	0.5%	0.7%	0.9%	1.0%	1.2%	1.3%	1.2%
後期	とてもそう思う	49.1%	55.6%	56.8%	50.9%	56.1%	51.2%	51.8%	56.4%	48.4%	48.3%
	そう思う	46.6%	41.4%	39.1%	42.5%	39.1%	42.0%	41.3%	38.5%	42.1%	43.4%
	そう思わない	3.3%	2.4%	3.3%	6.0%	4.0%	5.8%	5.4%	4.0%	7.9%	7.1%
	全くそう思わない	1.0%	0.6%	0.7%	0.7%	0.7%	0.9%	1.5%	1.0%	1.6%	1.2%
後期では、全体的に「とてもそう思う」が減少し、「そう思う」が増加しているが、全体的な肯定的な意見の割合にほとんど変化はない。中だるみの起きやすい2年生ではあるが、「II 説明や指示の内容」「III 授業構成・進度」の項目の「とてもそう思う」が減少しており、3年生に向けてどう授業を組み立てて、モチベーションを高めていくかが課題と思われる。											

		I 授業に対する意欲・姿勢	II 説明や指示の内容		III 授業構成・進度		IV 興味・関心	V 学力向上		VI 言語活動とコミュニケーション	
3 年		1. 私は、授業に集中し意欲的に取り組んでいる。	1. 先生の説明や指示・問いかけは、明確である。	2. 先生の板書や資料（プリント・視聴覚教材等）は見やすい。	1. 授業目標が明示され、それが達成される構成になっている。	2. 授業進度は適切である。	1. 興味・関心をかきたてる授業内容である。	1. 自身の進路目標と照らし、それ以上の学力レベルへの到達が期待できる授業である。	2. 週間テスト・確認テスト等は基礎力定着に有効である。	1. グループワークや発表・説明等の言語活動の機会がある。	2. 生徒と教師による双方向のコミュニケーションが図られている。
前期	とてもそう思う	58.2%	62.4%	64.7%	55.3%	61.6%	54.5%	60.7%	62.6%	48.0%	49.8%
	そう思う	38.1%	34.0%	31.2%	38.5%	34.2%	37.6%	33.2%	34.2%	37.1%	39.5%
	そう思わない	3.4%	2.7%	3.0%	5.2%	3.3%	6.1%	4.1%	2.3%	12.3%	8.8%
	全くそう思わない	0.4%	0.9%	1.1%	0.9%	0.9%	1.8%	1.9%	0.9%	2.6%	1.9%
後期	とてもそう思う	59.9%	63.5%	65.1%	58.9%	65.1%	59.5%	65.1%	63.4%	49.3%	55.1%
	そう思う	37.1%	33.6%	32.1%	37.7%	31.5%	34.4%	30.9%	30.9%	33.9%	34.3%
	そう思わない	2.6%	2.5%	2.2%	2.8%	2.6%	5.2%	3.3%	5.2%	14.5%	9.0%
	全くそう思わない	0.4%	0.4%	0.6%	0.6%	0.8%	0.9%	0.8%	0.5%	2.3%	1.6%
後期では、全体的に「とてもそう思う」「そう思う」がともに微増となっており、全体的な肯定的な意見の割合も前期よりも増加している。大学受験に向かう中で、授業にも意欲的に取り組んでいると思われる。特に「III 授業構成・進度」「IV 興味・関心」の項目において肯定的な意見が高くなっている点が顕著である。授業の進度を確保しながら、興味・関心を高める工夫がなされている。											

授業アンケート 比較資料 [学校全体]

		進路指導			生徒指導			学校生活全般	
1 年		1. 学校から提供される進路情報が進路選択や職業選択に役立っている。	2. 先生方は面談を通して、質問や相談に対して丁寧に対応してくれている。	3. 各種講座や講演会、個別指導などが進路選択や学力向上に役立っている。	1. 着装の自由はこれからも続けたほうがよい。	2. 遅刻指導、整容指導などの基本的な生活習慣に関する指導が適切になされている。	3. 交通安全や挨拶などの社会のルール・マナーを身につけるようキャリア教育につながる適切な指導がなされている。	1. 秋田高校に入学してよかったと感じている。	2. 秋田高校での学校生活が充実している。
前期	とてもそう思う	52.6%	59.9%	50.0%	87.1%	46.7%	47.8%	66.5%	66.9%
	そう思う	44.5%	39.0%	43.8%	11.8%	43.8%	43.8%	31.6%	31.3%
	そう思わない	2.9%	1.1%	6.3%	0.0%	7.7%	7.4%	1.8%	1.8%
	全くそう思わない	0.0%	0.0%	0.0%	1.1%	1.8%	1.1%	0.0%	0.0%
後期	とてもそう思う	39.7%	56.9%	36.3%	82.4%	45.0%	47.3%	59.5%	64.9%
	そう思う	54.2%	42.4%	53.1%	17.2%	42.7%	43.1%	37.4%	34.0%
	そう思わない	6.1%	0.8%	8.0%	0.4%	11.5%	8.4%	3.1%	0.8%
	全くそう思わない	0.0%	0.0%	2.7%	0.0%	0.8%	1.1%	0.0%	0.4%

		進路指導			生徒指導			学校生活全般	
2 年		1. 学校から提供される進路情報が進路選択や職業選択に役立っている。	2. 先生方は面談を通して、質問や相談に対して丁寧に対応してくれている。	3. 各種講座や講演会、個別指導などが進路選択や学力向上に役立っている。	1. 着装の自由はこれからも続けたほうがよい。	2. 遅刻指導、整容指導などの基本的な生活習慣に関する指導が適切になされている。	3. 交通安全や挨拶などの社会のルール・マナーを身につけるようキャリア教育につながる適切な指導がなされている。	1. 秋田高校に入学してよかったと感じている。	2. 秋田高校での学校生活が充実している。
前期	とてもそう思う	48.1%	55.4%	40.3%	84.0%	44.6%	46.3%	52.8%	52.4%
	そう思う	47.6%	43.3%	50.6%	15.2%	44.2%	44.2%	44.2%	42.4%
	そう思わない	3.9%	1.3%	8.7%	0.9%	9.1%	8.2%	2.6%	4.3%
	全くそう思わない	0.4%	0.0%	0.4%	0.0%	2.2%	1.3%	0.4%	0.9%
後期	とてもそう思う	43.8%	53.1%	39.8%	80.5%	39.1%	40.2%	53.5%	52.0%
	そう思う	51.2%	45.7%	53.5%	18.8%	46.1%	49.2%	42.6%	42.6%
	そう思わない	4.7%	1.2%	5.9%	0.4%	12.5%	9.8%	3.5%	4.7%
	全くそう思わない	0.4%	0.0%	0.8%	0.4%	2.3%	0.8%	0.4%	0.8%

		進路指導			生徒指導			学校生活全般	
3 年		1. 学校から提供される進路情報が進路選択や職業選択に役立っている。	2. 先生方は面談を通して、質問や相談に対して丁寧に対応してくれている。	3. 各種講座や講演会、個別指導などが進路選択や学力向上に役立っている。	1. 着装の自由はこれからも続けたほうがよい。	2. 遅刻指導、整容指導などの基本的な生活習慣に関する指導が適切になされている。	3. 交通安全や挨拶などの社会のルール・マナーを身につけるようキャリア教育につながる適切な指導がなされている。	1. 秋田高校に入学してよかったと感じている。	2. 秋田高校での学校生活が充実している。
前期	とてもそう思う	53.3%	60.4%	43.3%	81.7%	50.8%	52.5%	62.1%	60.4%
	そう思う	42.5%	37.9%	48.3%	16.3%	37.5%	40.8%	35.8%	37.1%
	そう思わない	4.2%	1.7%	7.9%	0.8%	8.8%	5.8%	1.7%	2.5%
	全くそう思わない	0.0%	0.0%	0.4%	1.3%	2.9%	0.8%	0.4%	0.0%
後期	とてもそう思う	63.8%	70.4%	55.8%	80.0%	55.0%	57.1%	67.9%	67.1%
	そう思う	32.1%	27.9%	37.1%	17.5%	35.4%	36.3%	29.6%	30.4%
	そう思わない	2.9%	1.3%	5.4%	1.7%	7.1%	5.8%	1.7%	1.7%
	全くそう思わない	1.3%	0.4%	1.7%	0.8%	2.5%	0.8%	0.8%	0.8%

令和6年度 保護者用「学校評価アンケート」集計結果(全体)

総務部

◎調査票配布日 12月2日

質問 番号	質 問 項 目	調査 年度	評 価 段 階				
			1	2	3	4	5
			そう思う	どちらか というと思う	あまり思 わない	まったく 思わない	わから ない
1	学校では生命の尊厳や他者を思いやるなどの豊かな心の育成が図られている	R6	29.4%	49.7%	6.7%	0.6%	13.6%
		R5	34.0%	47.2%	6.6%	0.0%	12.2%
		R4	28.0%	50.7%	5.3%	0.0%	16.1%
2	学校では一人一人の生徒の持つ能力や特性の一層の開発・伸長が図られている	R6	38.8%	48.6%	5.9%	0.4%	6.3%
		R5	39.8%	47.6%	6.7%	0.0%	5.9%
		R4	36.7%	48.2%	7.1%	0.0%	8.0%
3	学校では明確な進路目標を持ち、その達成に向かって主体的に学び続ける生徒を育成している	R6	52.8%	42.1%	1.7%	0.4%	2.9%
		R5	56.4%	39.6%	1.6%	0.0%	2.4%
		R4	56.9%	38.5%	2.9%	0.0%	1.8%
4	学校では進路希望に沿って一層の学力向上に取り組んでいる	R6	52.2%	40.9%	3.6%	0.4%	2.9%
		R5	55.3%	38.3%	3.5%	0.0%	2.9%
		R4	60.0%	34.7%	3.1%	0.0%	2.2%
5	学校からの進路情報は役立っている	R6	43.8%	45.5%	5.7%	1.0%	4.0%
		R5	50.4%	40.0%	5.1%	0.0%	4.5%
		R4	48.7%	43.2%	3.5%	0.0%	4.6%
6	学校では整容やマナーについての指導は適切である	R6	30.0%	49.7%	7.8%	1.0%	11.5%
		R5	33.5%	43.4%	12.2%	0.0%	10.9%
		R4	34.6%	45.0%	8.3%	0.0%	12.1%
7	学校ではいじめや不登校について効果的な指導を行っている	R6	20.3%	35.6%	6.5%	0.2%	37.3%
		R5	20.1%	36.7%	9.1%	0.0%	34.0%
		R4	17.7%	32.3%	8.2%	0.0%	41.8%
8	学校行事は適切に運営されている	R6	64.2%	32.1%	1.7%	0.2%	1.9%
		R5	63.9%	31.0%	2.9%	0.0%	2.1%
		R4	60.3%	36.0%	2.0%	0.0%	1.8%
9	家庭として学校への協力は十分である	R6	24.5%	58.5%	8.8%	0.2%	8.0%
		R5	25.9%	59.2%	6.9%	0.0%	8.0%
		R4	27.8%	58.1%	4.9%	0.0%	9.3%

アンケート 回収数	
1年	169
2年	175
3年	133
総計	477

質問 番号	質 問 項 目	調査 年度	選 択 肢						
			1	2	3	4	5	6	7
			授業	生徒会・HR	部活動	学校行事	休み時間	講座	その他
10	御子様は学校でどんな時が楽しいと言っていますか。該当するものをすべてあげてください	R6	35.6%	9.6%	56.0%	74.8%	49.9%	10.5%	13.2%
		R5	35.5%	9.0%	57.6%	73.2%	46.7%	11.4%	9.5%
		R4	39.4%	8.1%	56.2%	71.6%	43.8%	10.4%	9.5%

質問 番号	質 問 項 目	調査 年度	選 択 肢					
			1	2	3	4	5	6
			どの教科もよくわかる	わかる教科が多い	わかる教科は少ない	理解できずに苦しんでいる	聞いたことがない	その他
11	御子様は授業に対してどんな感想や意見を述べていますか	R6	8.7%	62.3%	9.2%	5.7%	13.3%	0.9%
		R5	10.3%	60.6%	10.6%	4.3%	10.9%	3.3%
		R4	11.4%	59.4%	8.6%	3.6%	9.2%	7.7%

質問 番号	質 問 項 目	調査 年度	選 択 肢								
			1	2	3	4	5	6	7	8	9
			学習指導	基本的な生活習慣	進路指導	部活動	体力向上や健康	IT教育	国際理解	ボランティア	その他
12	学校にもっと力を入れてほしいことは何ですか。三つ選び、希望の高い順に1番目～3番目に答えてください（1番目）	R6	58.1%	4.3%	27.7%	1.8%	1.6%	2.9%	2.7%	1.0%	0.0%
		R5	46.8%	6.5%	24.7%	1.8%	4.1%	6.7%	6.7%	2.8%	0.0%
		R4	48.4%	5.8%	25.7%	1.4%	4.2%	5.0%	7.0%	2.6%	0.0%
12	学校にもっと力を入れてほしいことは何ですか。三つ選び、希望の高い順に1番目～3番目に答えてください（2番目）	R6	23.5%	9.5%	47.4%	5.7%	3.4%	4.5%	3.6%	2.4%	0.0%
		R5	18.0%	9.0%	36.6%	7.6%	5.4%	9.0%	9.8%	4.6%	0.0%
		R4	20.9%	7.0%	38.3%	7.2%	4.7%	9.0%	8.4%	4.5%	0.0%
12	学校にもっと力を入れてほしいことは何ですか。三つ選び、希望の高い順に1番目～3番目に答えてください（3番目）	R6	4.5%	18.7%	13.0%	17.2%	8.9%	17.0%	15.7%	5.1%	0.0%
		R5	5.6%	16.5%	12.2%	11.7%	8.2%	20.7%	16.2%	8.8%	0.0%
		R4	4.7%	15.3%	11.5%	13.1%	8.1%	20.3%	15.1%	11.7%	0.0%

質問 番号	質 問 項 目	調査 年度	選 択 肢	
			1	2
			ある	ない
13	Chromebookの利用によりお子さんの学習に変化はありましたか。	R6	41.3%	58.7%
		R5	27.9%	72.1%
		R4	56.3%	43.8%

令和6年度 保護者用「学校評価アンケート」集計結果(1年生)

◎調査票配布日 12月2日

質問 番号	質 問 項 目	調査 年度	評 価 段 階				
			1	2	3	4	5
			そう思う	どちらか というそ う思う	あまり思 わない	まったく 思わない	わからな い
1	学校では生命の尊厳や他者を思いやるなどの豊かな心の育成が図られている	R6	33.1%	47.9%	6.5%	0.6%	11.8%
		R5	31.5%	50.6%	7.4%	0.0%	10.5%
		R4	22.7%	50.3%	6.5%	0.0%	20.5%
2	学校では一人一人の生徒の持つ能力や特性の一層の開発・伸長が図られている	R6	43.2%	43.2%	3.6%	1.2%	8.9%
		R5	38.3%	50.0%	7.4%	0.0%	3.1%
		R4	28.8%	52.7%	8.7%	0.0%	9.8%
3	学校では明確な進路目標を持ち、その達成に向かって主体的に学び続ける生徒を育成している	R6	60.4%	33.7%	1.2%	1.2%	3.6%
		R5	52.5%	44.4%	1.9%	0.0%	1.2%
		R4	51.9%	42.7%	3.2%	0.0%	2.2%
4	学校では進路希望に沿って一層の学力向上に取り組んでいる	R6	57.4%	34.9%	3.6%	1.2%	3.0%
		R5	54.3%	41.4%	3.1%	0.0%	1.2%
		R4	53.8%	40.2%	2.2%	0.0%	3.8%
5	学校からの進路情報は役立っている	R6	50.9%	36.7%	5.3%	1.2%	5.9%
		R5	47.5%	44.4%	5.6%	0.0%	2.5%
		R4	43.8%	45.4%	3.2%	0.0%	7.6%
6	学校では整容やマナーについての指導は適切である	R6	36.1%	46.7%	4.7%	1.2%	11.2%
		R5	36.4%	42.6%	13.0%	0.0%	8.0%
		R4	30.8%	47.6%	8.6%	0.0%	13.0%
7	学校ではいじめや不登校について効果的な指導を行っている	R6	23.1%	34.9%	4.1%	0.6%	37.3%
		R5	19.1%	38.9%	8.6%	0.0%	33.3%
		R4	13.0%	31.9%	7.0%	0.0%	48.1%
8	学校行事は適切に運営されている	R6	65.1%	30.8%	0.6%	0.0%	3.6%
		R5	59.3%	38.9%	1.9%	0.0%	0.0%
		R4	57.3%	36.8%	3.2%	0.0%	2.7%
9	家庭として学校への協力は十分である	R6	29.0%	55.6%	8.3%	0.0%	7.1%
		R5	27.8%	61.1%	6.2%	0.0%	4.9%
		R4	25.1%	58.5%	4.9%	0.0%	11.5%

アンケート 回収数	
1年	169

質問 番号	質 問 項 目	調査 年度	選 択 肢						
			1	2	3	4	5	6	7
			授業	生徒会・HR	部活動	学校行事	休み時間	講座	その他
10	御子様は学校でどんな時が楽しいと言っていますか。該当するものをすべてあげてください	R6	43.2%	8.9%	63.3%	75.1%	50.3%	9.5%	14.8%
		R5	37.0%	9.9%	61.1%	74.1%	49.4%	13.6%	10.5%
		R4	44.9%	7.0%	58.9%	66.5%	46.5%	11.9%	11.4%

質問 番号	質 問 項 目	調査 年度	選 択 肢					
			1	2	3	4	5	6
			どの教科もよくわかる	わかる教科が多い	わかる教科は少ない	理解できずに苦しんでいる	聞いたことがない	その他
11	御子様は授業に対してどんな感想や意見を述べていますか	R6	9.5%	59.8%	12.4%	8.3%	7.7%	2.4%
		R5	8.6%	61.1%	9.3%	3.1%	10.5%	7.4%
		R4	11.2%	55.3%	11.2%	5.3%	10.6%	6.4%

質問 番号	質 問 項 目	調査 年度	選 択 肢								
			1	2	3	4	5	6	7	8	9
			学習指導	基本的生活習慣	進路指導	部活動	体力向上や健康	IT教育	国際理解	ボランティア	その他
12	学校にもっと力を入れてほしいことは何ですか。三つ選び、希望の高い順に1番目～3番目に答えてください（1番目）	R6	64.5%	4.1%	24.3%	3.0%	1.8%	3.0%	4.1%	1.2%	0.0%
		R5	54.3%	9.9%	24.7%	1.2%	4.9%	8.6%	5.6%	1.9%	0.0%
		R4	49.5%	7.7%	19.2%	1.9%	4.3%	6.7%	7.7%	2.9%	0.0%
12	学校にもっと力を入れてほしいことは何ですか。三つ選び、希望の高い順に1番目～3番目に答えてください（2番目）	R6	20.1%	6.5%	52.7%	5.3%	4.1%	4.1%	5.9%	3.0%	0.0%
		R5	18.5%	8.6%	38.9%	9.9%	6.8%	11.1%	12.3%	6.2%	0.0%
		R4	17.3%	5.6%	42.1%	6.1%	8.1%	8.6%	8.6%	3.6%	0.0%
12	学校にもっと力を入れてほしいことは何ですか。三つ選び、希望の高い順に1番目～3番目に答えてください（3番目）	R6	2.4%	15.4%	13.6%	19.5%	7.7%	16.0%	16.0%	5.3%	0.0%
		R5	6.8%	17.3%	14.2%	11.1%	6.8%	16.0%	17.3%	9.3%	0.0%
		R4	6.7%	14.4%	14.4%	14.4%	2.8%	23.3%	13.9%	10.0%	0.0%

質問 番号	質 問 項 目	調査 年度	選 択 肢	
			1	2
			ある	ない
13	Chromebookの利用によりお子さんの学習に変化はありましたか。	R6	38.5%	61.5%
		R5	35.2%	60.5%
		R4	54.4%	45.6%

令和6年度 保護者用「学校評価アンケート」集計結果(2年生)

◎調査票配布日 12月2日

質問 番号	質 問 項 目	調査 年度	評 価 段 階				
			1	2	3	4	5
			そう思う	どちらか というところ 思う	あまり思 わない	まったく 思わない	わからな い
1	学校では生命の尊厳や他者を思いやるなどの豊かな心の育成が図られている	R6	25.1%	51.4%	6.9%	0.6%	16.0%
		R5	24.2%	53.2%	6.5%	0.0%	16.1%
		R4	33.6%	47.0%	8.2%	0.0%	11.2%
2	学校では一人一人の生徒の持つ能力や特性の一層の開発・伸長が図られている	R6	34.3%	53.1%	7.4%	0.0%	5.1%
		R5	31.5%	51.6%	6.5%	0.0%	9.7%
		R4	42.1%	42.1%	8.3%	0.0%	7.5%
3	学校では明確な進路目標を持ち、その達成に向かって主体的に学び続ける生徒を育成している	R6	42.9%	52.6%	2.3%	0.0%	2.3%
		R5	50.8%	41.9%	2.4%	0.0%	4.0%
		R4	59.3%	35.6%	4.4%	0.0%	0.7%
4	学校では進路希望に沿って一層の学力向上に取り組んでいる	R6	44.0%	49.7%	3.4%	0.0%	2.9%
		R5	50.0%	41.1%	3.2%	0.0%	4.8%
		R4	61.8%	31.6%	5.9%	0.0%	0.7%
5	学校からの進路情報は役立っている	R6	32.6%	54.9%	6.9%	1.7%	4.0%
		R5	47.6%	39.5%	5.6%	0.0%	7.3%
		R4	47.8%	44.1%	5.1%	0.0%	2.9%
6	学校では整容やマナーについての指導は適切である	R6	24.6%	51.4%	10.9%	1.1%	12.0%
		R5	27.4%	43.5%	12.9%	0.0%	15.3%
		R4	37.5%	43.4%	8.8%	0.0%	10.3%
7	学校ではいじめや不登校について効果的な指導を行っている	R6	14.3%	36.6%	9.1%	0.0%	40.0%
		R5	12.1%	33.1%	12.1%	0.0%	41.1%
		R4	21.5%	31.1%	9.6%	0.0%	37.8%
8	学校行事は適切に運営されている	R6	58.3%	37.7%	2.3%	0.6%	1.1%
		R5	61.3%	27.4%	5.6%	0.0%	5.6%
		R4	64.7%	32.4%	1.5%	0.0%	1.5%
9	家庭として学校への協力は十分である	R6	21.7%	58.9%	9.7%	0.6%	9.1%
		R5	21.0%	58.9%	8.9%	0.0%	11.3%
		R4	27.9%	60.3%	4.4%	0.0%	7.4%

アンケート 回収数	
2年	175

質問 番号	質 問 項 目	調査 年度	選 択 肢						
			1	2	3	4	5	6	7
			授業	生徒会・HR	部活動	学校行事	休み時間	講座	その他
10	御子様は学校でどんな時が楽しいと言っていますか。該当するものをすべてあげてください	R6	30.9%	9.1%	57.1%	69.7%	52.0%	12.6%	14.9%
		R5	36.3%	10.5%	56.5%	72.6%	41.1%	12.9%	5.6%
		R4	33.6%	7.5%	56.7%	73.9%	39.6%	7.5%	9.7%

質問 番号	質 問 項 目	調査 年度	選 択 肢					
			1	2	3	4	5	6
			どの教科もよくわかる	わかる教科が多い	わかる教科は少ない	理解できずに苦しんでいる	聞いたことがない	その他
11	御子様は授業に対してどんな感想や意見を述べていますか	R6	6.3%	60.6%	8.0%	4.0%	13.1%	0.0%
		R5	8.9%	57.3%	11.3%	4.8%	11.3%	0.0%
		R4	11.6%	60.9%	10.1%	3.6%	5.1%	8.7%

質問 番号	質 問 項 目	調査 年度	選 択 肢								
			1	2	3	4	5	6	7	8	9
			学習指導	基本的生活習慣	進路指導	部活動	体力向上や健康	IT教育	国際理解	ボランティア	その他
12	学校にもっと力を入れてほしいことは何ですか。三つ選び、希望の高い順に1番目～3番目に答えてください（1番目）	R6	58.3%	5.7%	32.0%	2.3%	2.3%	2.9%	2.3%	1.1%	0.0%
		R5	54.0%	4.8%	35.5%	2.4%	4.8%	6.5%	8.9%	4.8%	0.0%
		R4	51.6%	4.6%	26.1%	1.3%	5.2%	2.6%	5.9%	2.6%	0.0%
12	学校にもっと力を入れてほしいことは何ですか。三つ選び、希望の高い順に1番目～3番目に答えてください（2番目）	R6	29.1%	12.6%	44.0%	4.6%	1.7%	5.1%	1.1%	1.7%	0.0%
		R5	20.2%	12.1%	39.5%	7.3%	7.3%	5.6%	8.9%	4.8%	0.0%
		R4	19.9%	8.2%	39.0%	8.2%	1.4%	11.6%	7.5%	4.1%	0.0%
12	学校にもっと力を入れてほしいことは何ですか。三つ選び、希望の高い順に1番目～3番目に答えてください（3番目）	R6	5.1%	18.9%	16.0%	14.9%	10.3%	16.6%	12.6%	5.1%	0.0%
		R5	2.4%	14.5%	12.1%	12.1%	7.3%	26.6%	13.7%	6.5%	0.0%
		R4	3.8%	18.2%	9.8%	11.4%	11.4%	16.7%	15.2%	13.6%	0.0%

質問 番号	質 問 項 目	調査 年度	選 択 肢	
			1	2
			ある	ない
13	Chromebookの利用によりお子さんの学習に変化はありましたか。	R6	43.4%	56.6%
		R5	36.3%	59.7%
		R4	54.1%	45.9%

令和6年度 保護者用「学校評価アンケート」集計結果(3年生)

◎調査票配布日 12月2日

質問 番号	質 問 項 目	調査 年度	評 価 段 階				
			1	2	3	4	5
			そう思う	どちらか というそ う思う	あまり思 わない	まったく 思わない	わからな い
1	学校では生命の尊厳や他者を思いやるなどの豊かな心の育成が図られている	R6	30.1%	49.6%	6.8%	0.8%	12.8%
		R5	50.5%	32.3%	5.4%	0.0%	9.7%
		R4	29.6%	54.8%	0.7%	0.0%	14.8%
2	学校では一人一人の生徒の持つ能力や特性の一層の開発・伸長が図られている	R6	39.1%	49.6%	6.8%	0.0%	4.5%
		R5	51.6%	35.5%	5.4%	0.0%	5.4%
		R4	42.2%	48.1%	3.7%	0.0%	5.9%
3	学校では明確な進路目標を持ち、その達成に向かって主体的に学び続ける生徒を育成している	R6	56.4%	39.1%	1.5%	0.0%	3.0%
		R5	68.8%	26.9%	0.0%	0.0%	2.2%
		R4	61.5%	35.6%	0.7%	0.0%	2.2%
4	学校では進路希望に沿って一層の学力向上に取り組んでいる	R6	56.4%	36.8%	3.8%	0.0%	3.0%
		R5	62.4%	28.0%	4.3%	0.0%	3.2%
		R4	66.7%	30.4%	1.5%	0.0%	1.5%
5	学校からの進路情報は役立っている	R6	49.6%	44.4%	4.5%	0.0%	1.5%
		R5	57.0%	31.2%	3.2%	0.0%	4.3%
		R4	56.4%	39.1%	2.3%	0.0%	2.3%
6	学校では整容やマナーについての指導は適切である	R6	29.3%	51.1%	7.5%	0.8%	11.3%
		R5	35.5%	43.0%	9.7%	0.0%	9.7%
		R4	37.0%	43.0%	7.4%	0.0%	12.6%
7	学校ではいじめや不登校について効果的な指導を行っている	R6	24.8%	35.3%	6.0%	0.0%	33.8%
		R5	31.2%	35.5%	5.4%	0.0%	23.7%
		R4	20.5%	34.1%	8.3%	0.0%	37.1%
8	学校行事は適切に運営されている	R6	70.7%	26.3%	2.3%	0.0%	0.8%
		R5	74.2%	21.5%	1.1%	0.0%	1.1%
		R4	60.0%	38.5%	0.7%	0.0%	0.7%
9	家庭として学校への協力は十分である	R6	22.6%	61.7%	8.3%	0.0%	7.5%
		R5	28.0%	53.8%	5.4%	0.0%	8.6%
		R4	31.3%	55.2%	5.2%	0.0%	8.2%

アンケート 回収数	
3年	133

質問 番号	質 問 項 目	調査 年度	選 択 肢						
			1	2	3	4	5	6	7
			授業	生徒会・HR	部活動	学校行事	休み時間	講座	その他
10	御子様は学校でどんな時が楽しいと言っていますか。該当するものをすべてあげてください	R6	32.3%	11.3%	45.1%	81.2%	46.6%	9.0%	9.0%
		R5	31.2%	5.4%	51.6%	71.0%	48.4%	5.4%	12.9%
		R4	37.8%	10.4%	51.9%	76.3%	44.4%	11.1%	6.7%

質問 番号	質 問 項 目	調査 年度	選 択 肢					
			1	2	3	4	5	6
			どの教科もよくわかる	わかる教科が多い	わかる教科は少ない	理解できずに苦しんでいる	聞いたことがない	その他
11	御子様は授業に対してどんな感想や意見を述べていますか	R6	9.8%	59.4%	5.3%	3.8%	18.8%	0.0%
		R5	14.0%	57.0%	10.8%	5.4%	9.7%	0.0%
		R4	11.4%	63.6%	3.6%	1.4%	11.4%	8.6%

質問 番号	質 問 項 目	調査 年度	選 択 肢								
			1	2	3	4	5	6	7	8	9
			学習指導	基本的生活習慣	進路指導	部活動	体力向上や健康	IT教育	国際理解	ボランティア	その他
12	学校にもっと力を入れてほしいことは何ですか。三つ選び、希望の高い順に1番目～3番目に答えてください (1番目)	R6	65.4%	3.8%	33.8%	0.0%	0.8%	3.8%	2.3%	0.8%	0.0%
		R5	51.6%	6.5%	24.7%	3.2%	4.3%	7.5%	9.7%	3.2%	0.0%
		R4	43.3%	4.3%	34.8%	0.7%	2.8%	5.0%	7.1%	2.1%	0.0%
12	学校にもっと力を入れてほしいことは何ですか。三つ選び、希望の高い順に1番目～3番目に答えてください (2番目)	R6	23.3%	10.5%	51.1%	8.3%	5.3%	4.5%	4.5%	3.0%	0.0%
		R5	20.4%	8.6%	40.9%	6.5%	2.2%	12.9%	9.7%	3.2%	0.0%
		R4	26.9%	7.6%	32.4%	7.6%	3.4%	6.9%	9.0%	6.2%	0.0%
12	学校にもっと力を入れてほしいことは何ですか。三つ選び、希望の高い順に1番目～3番目に答えてください (3番目)	R6	6.0%	21.8%	7.5%	16.5%	8.3%	18.0%	18.8%	4.5%	0.0%
		R5	7.5%	17.2%	8.6%	11.8%	11.8%	20.4%	17.2%	10.8%	0.0%
		R4	3.1%	13.7%	9.2%	13.0%	12.2%	19.8%	16.8%	12.2%	0.0%

質問 番号	質 問 項 目	調査 年度	選 択 肢	
			1	2
			ある	ない
13	Chromebookの利用によりお子さんの学習に変化はありましたか。	R6	42.1%	57.9%
		R5	0.0%	97.8%
		R4	60.9%	39.1%